

竹内均先生追悼講演 - 竹内均先生の地球・惑星科学最前線における業績 -

Prof. Hitoshi Takeuchi memorial lecture - Prof. H. Takeuchi's contribution on Frontier of Earth and Planetary Science -

水谷 仁[1]

Hitoshi Mizutani[1]

[1] 宇宙研

[1] ISAS

2004年4月20日、日本を代表する地球物理学者で東京大学名誉教授の竹内均先生がご逝去された。数々の優れた研究業績も然る事ながら、多くの後進を輩出し、地球科学界のみならず、科学界に与えた影響は計り知れない。東京大学退官の後は科学雑誌「ニュートン」を創刊し、わかりやすい科学の普及に努められ、教育界にも多大な影響を与えた。特に、当時まだ珍しかったフルカラー画像を多用した「ニュートン」誌、動く映像を駆使したNHK高校講座は竹内先生の映像に対する優れた先見性を示していると言える。そこで本セッションではヴィジュアル地球科学の先駆者ともいえる竹内均先生を追悼し、その業績と足跡を振り返ることでこれまでの映像の地学を俯瞰し、今後の地球惑星科学分野における映像の役割とその可能性について議論したい。

本講演では、竹内先生とゆかりの深かった宇宙航空研究開発機構名誉教授の水谷 仁氏をお招きし、竹内先生の地球・惑星科学の最前線を切り開いたいくつかの業績について講演していただく予定である。竹内先生の業績は多岐にわたり、その一部を紹介するだけでも大変であるが、ここでは地球・惑星科学の最前線において竹内先生がどのような業績を上げてきたかを紹介する。このようなものとして、地球潮汐の理論、地球自由振動の理論、地磁気ダイナモ理論、月の集積過程の理論などが上げられる。これらを地球物理の発展の歴史にそって紹介していただく。